

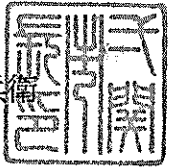


建 第 02002 号

平成19年5月7日

国土交通省道路局長 様

岩手県一関市長 浅井 東兵衛



中期的な計画の作成にあたっての意見について

標記について、別紙により回答いたしますのでよろしくお願いいたします。

今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

岩手県一関市

◎道路特定財源を引き続き確保し、地方の道路整備を促進されたい

① 市町村合併後における一体感のある地域づくりの道路整備

- ・ 当市は、平成17年の9月に、7市町村が合併し、東西は約63キロメートル南北は約46キロメートル、総面積は1,133平方キロメートルとなり岩手県内の市町村で最も広い市域となった。
このことから、行政サービスはもとより、人、物、情報の地域間の効率的でスムーズな交流と地域づくりを図るため各地域を短時間で結ぶ道路網の早急な整備。

② 交通拠点へのアクセス整備

- ・ 当市には、東北自動車道一関インターチェンジ、JR一ノ関駅など交通拠点があり、岩手県南の重要な交通拠点都市となっております。
また、国・県道幹線道路が集中しており、県内はもとより宮城県、秋田県、さらには三陸沿岸都市からの物流、観光、医療、災害支援等、活力ある安全で安心の地域づくりのためのアクセス道路が集中しており、その整備は重要な課題であります
さらに、宮城県内で建設が進められている、三陸縦貫自動車道の登米インターチェンジが、平成20年4月に供用開始予定とのことであり今後、交通量が、大幅に増加することが予想されます。
このような状況から、国道4号の4車線化、国道284号室根バイパス、国道342号花泉バイパス、主要地方道一関大東線などの交通障害箇所解消事業の促進および交通安全施設の整備など、アクセス道路の早急な整備。

③ 観光拠点へのアクセス道路の整備

- ・ 当市および周辺地域には、歴史・人文・自然景観などの豊かな観光資源が多く、また、平成20年には「平泉」「骨寺村荘園遺跡」が世界遺産登録予定であること等から、さらに観光の振興に力をいれ地域の活性化を図ることとしており、隣県の観光地や道の駅を含めた観光拠点を結ぶネットワークおよび、アクセス道路の整備。

④ 生命を守る安全安心の道路整備

- ・ 広域拠点化が進んでいる高度救命救急医療施設や総合病院などへ短時間でアクセスできる高速道路ネットワークの整備はもとより、水害や近年高い確率で発生すると予想されている大地震や津波など災害時の避難路や緊急輸送路の確保など災害に強い国道、県道など幹線道路の整備。

⑤ 過疎化、少子高齢化地域の暮らしをまもる道路整備

- ・ 当市の市道は、総延長が3,754キロメートルあり、その整備状況は、改良率が49パーセント、舗装率は45パーセントと低く、その中でも生活道路の整備が遅れており、緊急車両や介護福祉車両が通れない市道も多く少子高齢化の進行に伴い住民の不安と要望が強まっており生活道路の整備は喫緊の課題である。

⑥ 雇用の確保と若者の定住を図る道路整備

- ・ 当市は、積雪寒冷地にありながら、首都圏との交通、物流、気候、人材など、多くの面で企業の立地条件が優れており、雇用を確保し若者の定住と地域の活性化を図るため、企業が立地しやすい環境づくりのための道路整備が重要である。

⑦ 地球温暖化対策の道づくり

- ・ 交差点改良や拡幅改良などによる、渋滞のない走りやすい道路の整備、公共交通機関の効率的な運行ができる道路整備と、より利用しやすい高速道路の料金設定。

◎整備と管理の効率化について

①道路ストックの適切な管理

- ・ 既設の道路施設、橋梁、舗装など早期補修・補強を実施し長寿命化、耐震化を図る。

② 道路特定財源を地方の道路整備に最大限投入し、地域の活性化と納税者の生命と暮らしをまもる道路を早急に整備し効果の発現を早める。

③ 補助国道、県道、市道については一体管理とし、効率化と地域協働による道路管理を推進する。

④ 工事の品質を確保しながら適正な工事価格の競争の活性化を図りコ

ストの縮減を図る。

- ⑤ 遅れている地方道路整備や既存ストックの長寿命化・耐震化などの課題と地方自治体の道路整備等に必要な財源が大幅に不足する中、地方の自主性と裁量性の下に的確かつ機動的に取り組める「地方道路整備臨時交付金制度」は、安全、安心、快適な地域づくりに必要不可欠であり、平成20年度以降も引き続き継続することが重要であります。さらに補助国道への制度の適用拡大等地方公共団体が使いやすい制度となるよう一層の拡充を図る。